会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和６年度　高松市美術品等収集審査会
開催日時	令和７年２月１９日（水）午後１時３０分～午後３時
開催場所	高松市美術館　１階　講堂
議題	（１）会長の選任について （２）収集対象美術品の審議について （３）答申について
公開の区分	□公開　　□　一部公開　　■　非公開
上記理由	審議内容に契約相手方の個人情報が含まれるため、高松市情報公開条例第７条に該当、及び公立美術館の購入価格の公表は市場の取引価格に影響を及ぼすため)
出席委員	岡本委員、大場委員、北岡委員、木ノ下委員、森委員、吉川委員、渡部委員
美術専門家	河本信治氏、潮江宏三氏
傍聴者	なし
担当課及び連絡先	美術館美術課 823-1711

審議結果

議題（１）会長の選任について

高松市美術品等収集審査会条例第５条第１項の規定により、委員の互選により渡部委員が会長として選任された。また、同条例第５条第３項の規定により、会長から会長職務代理に北岡委員が指名された。

議題（２）収集対象美術品の審議について

事務局から別紙「収集対象美術品リスト」により収集候補作品２８点について、説明を行った。

・委員

日本の現代アートと讃岐漆芸が柱となっていて、また地域との関わりが感じられる候補作品で素晴らしいと感じた。例えば、片山真理さんの作品は瀬戸内国際芸術祭出品作品であり、香川と関わりを感じるし、音丸耕堂、明石朴景は地域に関わりがある作家で喜ばしく思った。希望としては、メディアアート作品の収集に力を入れてほしい。大学で、ゲームや ｅ スポーツ関連の学科ができたり、生成ＡＩ等を利用して作ったプログラムを組

審議結果
み合わせた作品等も生まれて、メディアアートが今後より多く制作され注目されていくと思う。インタラクティブな作品等も収集していってほしい。 ・委員 病院にアーティストが来て展示や制作をしたり、病院もアートを取り入れている。病院では、「障がい」は乗り越えるもの、困ったものとなるが、アートの世界では、表現上の個性となり勇敢な力となっていて、病院でいう「障がい」とは違っていると感じた。 ・委員 現代アートから漆芸までジャンル幅広く収集していて良い。小川信治の作品は、オマージュの元になった名画への興味も生まれるなど、過去への関心を呼び起こす作品に興味が湧いた。小中学校の現場では、鑑賞と表現を組み合わせて行うことが課題になっているが、そのヒントとなる作品であった。 ・委員 一つ一つ楽しい作品だったし、作家と美術館、地域との関わりを感じた。質問が２点ある。一つ目は、作家本人や遺族以外から購入する場合、真贋の判定はどのように行っているのか、例えば、今回の音丸耕堂作品はどのように真贋判定したか。二つ目は、中西夏之の作品については、６点購入で１４点寄贈ということだが、価格設定はどのように行っているのか。 （事務局説明） 真贋判定については、様々な方法で鑑定を行い、真作と判明するものを購入している。今回の音丸作品については、箱書き、中の袋等から判断し、また複数の展覧会に出品されているため、写真と比較した上で、真作と判断した。 中西夏之作品の価格設定については、市場価格や他の美術館の購入価格の調査を行い、先方の提示する価格が妥当であると判断した。 ・委員 これまでの高松市美術館のコレクションとつながりがある作品が多く、文脈を感じられる収集に感銘を受けた。中西夏之のドローイングが、同シリーズのドローイングとセットで収蔵されることは素晴らしい。ドローイングは作家の初期動機がわかる貴重なものである。小川信治の作品からは、描写する力、見ることの力が感じられ、改めて美術の力を感じ、また冨井大裕の作品からは発想力と観察眼が感じられた。漆芸も様々なシリーズで収集ができ、良いと思う。

審議結果
・委員 讃岐漆芸の全てがこの美術館にある。漆芸に力を入れていて喜ばしい。漆芸作品が多数候補に挙がったが、作家によって技法、デザインが全て違っている。1人の作家だけを特集して紹介するのではなく、デザインや構成の違いを紹介するような展覧会を企画してほしい。 ・会長 委員から要望があったメディアアートの収集や漆芸のデザインに着目した展覧会の開催について、事務局の考えを聞かせてほしい。 （事務局説明） メディアアートは今年度の収蔵はなかったが、近年収蔵している。現代アートの素材や形式は様々であるので、メディアアートに関わらず、新しいタイプの作品をリサーチして収集に努めたい。 コレクション展において、複数の作家を紹介しているが、今後、漆芸のデザインに着目した展覧会の開催も考えていきたい。 ・美術専門家 今回は、地味だけれど渋い収集候補で、今まで蓄積したコレクションの流れの隙間を埋めるような収集だと思った。作品一つ一つももちろん価値のあるものだが、美術館のコレクションというのは集合知でもある。 竹村京の作品は誤読しながら紹介する楽しみがある。既に収蔵している青山悟の刺繍の作品と合わせて紹介したり、フェミニズムの文脈でも取り上げられるし、刺繍や織物に関する労働という文脈からウィリアム・モリス等まで遡ることができる。 美術館の価値というのは、コレクションされた作品とそれを調べ紹介する学芸員の知性の積み上げだと思う。行政の方々もそのことを引き続き理解していただきたい。今回もよく練られた素晴らしい収集だと思う。 ・美術専門家 現代アートの候補は、見る人がコンタクトしやすい、感覚的に分かりやすい作品が多かった。パロディ、オマージュの作品もあり、是非、既にある高松市美術館のコレクションと組み合わせて、紹介していってほしい。漆芸作品については、作家の初期の作品が収集できることは良い。現在では巨匠と感じる作家たちの作品にも、その時代の反映が読み取れ、その時代の流行の中であがいていたことが分かり、興味深い。 見た目で分かりやすく、手掛かりのあるのが大事であり、それを重視したセレクションになっている。冨井大裕の作品はまず見た目が綺麗で取っ掛かりがあり、そこから消費社

審議結果
会の問題を考えられる等、その点が評価できると感じた。 議題（３）答申について 　市長から諮問にあった、令和６年度高松市立美術館の収集対象美術品の選考及び評価について審議した結果、別紙「対象作品美術品リスト」に掲載の作品全てについて、収集は可であるとし、２月１９日付けで市長に答申することを決定した。